

「心の復興」一番に

東日本大震災で関連死を含め16人が死亡・行方不明になり、首都圏最悪の津波被災地となった千葉県旭市でも11日、県・市合同の追悼式が行われた。遭難者による献花の前に、同市立飯岡中学校3年の時に被災した神奈川大4年、大木沙織さん(22)・川崎市が自らの体験を語り、「本当の復興は心の復興。旭市には今、このことが一番必要」と思いを込めた。

(渡辺 渉)

大木さんは中学校から内陸へ一時避難した後に戻った海辺の自宅で、玄関先まで迫る津波に遭遇。大学進学後の2016年、同じような被災経験を持つ飯岡中の同級生らとグループを結成し、自らが代表となつて震災を語り継ぎながら土里のために活動している。

追悼式では、こうした経緯に触れながら、「神奈川県に入学し、(旭市の被害が)知られていない悲しみを初めて経験した」と振り返っ

津波被害の千葉・旭市

た。その一方、「地元を離れたからこそ気付けたことを旭市で生かしていく。若者が率先することが大事」と自らに言い聞かせるように語り、「いつか戻ってきて、まちを盛り上げたい」と結んだ。

参列者は午後7時46分に黙とうをささげ、献花を行った。森田健作知事は式辞で「災害は大きな悲しみだが、助け合いや思いやりの気持ちが生まれ、その思いが引き継がれていくことはとても大切」と述べた。千葉県内では、旭市の

ほか、船橋市や柏市などで計8人が亡くなった。

被災が集中した旭市・飯岡

地区の海際にあり、再建を果に新築された家は数棟ほど。たした「いおか潮騒ホテル」被災者の心はまだ癒えておらず、忘れないための取り組みの周知では、地元住民らによる復興の集いが催され、音楽演奏などを通じて犠牲者を悼んだ。

神大4年 思い込め、体験朗読



①追悼式で自らの「震災の記憶」を朗読する大木さん＝千葉県旭市のいおかユートピアセンター②最大波到達の時刻に合わせ、黙とうをささげる住民ら＝11日午後5時26分ごろ、千葉県旭市